

和泉そぞろ

IZUMI SOZORO



①北信太駅

昭和7年（1932）、阪和電気鉄道（昭和15年に南海と合併。昭和19年に国有化。現・JR阪和線）の葛葉稻荷停留所として開業しました。駅東口に藤原重夫作の絵『葛の葉子別れ』が掲示されています。安倍晴明の母・葛の葉の正体が信太の森の白狐だとばれてしまい、「恋しくば尋ね来て見よ和泉なる信太の森のうらみ葛葉」と歌を書き残す場面です。藤原重夫（1940～）氏は和泉市出身の画家、僧侶で高野山などで数多くの仏画を手掛けています。

②Patisserie Mohn（ライスリー モーン）

フランス料理のコックを務めていたオーナーがパティシエとなり、1991年に開業しました。シャーキームが人気です。

③信太貝吹山古墳

帆立貝形古墳で、築造時期は古墳時代中期（5世紀前半）、墳丘長約60m、後円部直径約50m・高さ7.7mといわれています。平成15年（2003）に和泉市指定史跡になりました。天明2年（1782）、凶作で年貢減免を求めて一橋領の大鳥郡・泉郡54か村の住民たちが一揆（千原騒動）を起こしましたが、そのさいに法螺貝を合団に当地に集まつたので貝吹山と呼ばれたといわれています。

④リーアーナ（日本人造真珠硝子細工工業組合）

『日本ガラス工業史』によると神功皇后が三韓征伐の帰りに高麗のガラス玉職人を連れて壠に移住させて「泉州玉」が誕生。江戸時代には念珠玉、玉簾、玉簪などが作られ、壠から大坂・京に送られたと伝えられています。明治初期には池上村の神山喜代松が壠で修行し、和泉にガラス細工技術が伝播。また明治末期に大阪のガラス商・大井徳次郎がフランスのアクセサリーパールを研究して太刀魚の鱗を塗装する人造真珠を発明すると、その技術も伝わって和泉の地場産業となりました。現在、和泉市の人造真珠の全国シェアは7割近いといいます。リーアーナにはショールームがあり、アクセサリー手作り体験などが開催されます。

⑤舊府神社（ひふじんじや）・白狐化石

御祭神は素盞鳴尊。延長5年（927）編纂の『延喜式』にも記されている古社です。かつて当地に和泉国府があったので「舊府（古府）」になったという説があります。白狐化石は葛の葉が獵師から逃げるために化けたものといいます。元は小栗街道（熊野街道）にありましたが、昭和22年（1947）に当社に祀されました。

説経節『小栗判官』の舞台！小栗街道を行く ～信太貝吹山古墳から南王子村の八阪神社、西教寺へ～

江戸時代、泉州最大の一揆と呼ばれる千原騒動の舞台となった信太貝吹山古墳から白狐化石伝説が残る舊府神社、明治天皇が陸軍大演習のさいに訪れたという中央寺を経て、旧南王子村を巡ります。寺田治平衡頌徳碑のある八阪神社、南王子水平社の創立の舞台となった西教寺も必見です！

⑨小栗地蔵

説経節『小栗判官』の舞台になったので熊野街道は小栗街道ともいいます。恋人同士の小栗判官と照手姫が敵対者に騙され、小栗は毒を飲まして餓鬼に、照手は流されます。ひょんな偶然で2人は再会しますが、照手は小栗の変わり果てた姿に恋人と気づきません。熊野参詣すれば餓鬼が治ると聞き、照手は小栗を土車に乗せて熊野に向かい、最後は熊野権現の靈験によって小栗は復活し、照手と結ばれるといった筋書きです。小栗地蔵は小栗街道にあるので、この名がついたと思われます。また地蔵堂から南が、かつての南王子村です。

⑩八阪神社

南王子村の村民は、古くは聖神社と万松寺（神宮寺）の間に住み、神社に奉仕していました。しかし人口増加によって村移転を繰り返し、慶長11年（1698）に現在地に移ります。村民は鎮守社を持ちたいと考えましたが、領主の一橋藩から許されず、そこで地域に古くからあった小祠を文政9年（1826）に再建し、鎮守社（牛頭天王社。現・八阪神社）としました。この時、泉州一橋藩領の庄屋を務めていた池浦村（現・泉大津市）の豪農・寺田治兵衛が神社再建に尽力します。しかし西教寺（寺方）と牛頭天王社（宮方）の争いなどが起り、治兵衛は失脚。野洲一橋藩領（現・栃木県高根沢町）に流され、牢死しました。境内に治平衡の頌徳碑があります。

⑪小栗判官の笠かけ松・照手姫の腰かけ石

永尾緑地内にあります。かつては立派な松があり、小栗が笠をかけ、傍石に照手が腰かけたという伝承があります。

⑫阿耨山西教寺

浄土真宗本願寺派。文禄3年（1594）以前の創立といいますが詳細は不明です。寺伝では桜田門外の変に参加した水戸藩士を匿い、のちに寺子屋の先生になったといいます。大正12年（1923）、本堂で南王子水平社創立大会が開催され、全国水平社の西光万吉、栗須七郎、山田孝野次郎、南梅吉などが出席しています。南王子村出身の岸田岡太郎（1893～1924）は弁護士となり、水国事件（奈良の水平社と国粹会との衝突した事件）などで活躍しましたが、夭折し、西教寺で追悼会を行っています。また南王子村出身の浪曲師、節談説教師の達田良善（1890～1963）も西教寺で活動しています。約60年間、160冊以上に及ぶ『達田良善日記』は旧南王子村史を語る上で外せない第一級史料として高く評価されています。

⑥長岡山中央寺

黄檗宗寺院。鎌倉時代に細川氏の菩提寺であった中尾寺を元禄3年（1690）に慧極道明（1632～1721）禪師が中央寺として再興したといいます。江戸時代は聖神社近く（現・中央寺靈園辺り）にありましたが、明治10年（1877）に現在地に移りました。寺伝では明治32年（1898）の陸軍特別大演習（黒鳥山に記念碑があります）に明治天皇が訪れ、その記念に楠を植樹しました。残念ながら枯死し、現在は2代目の楠が生えています。

⑦聖神社一の鳥居

小栗街道（熊野街道）から聖神社に向かう参道の入口です。信太・幸地区のだんじり祭では一の鳥居から、だんじりが長く急な坂道を駆け上がりで宮入するのが見せ場のひとつです。聖神社には宮本町、尾井町、富秋町、葛の葉町、太町、上町、上代町、王子町、幸町の9つのだんじりが宮入します。

⑧篠田（信太）王子跡

平安時代後期に熊野詣が流行し、「蟻の熊野詣」と称されるほど大勢の参詣人が賑わいました。街道にある遙拝所が九十九王子で、和泉市内には篠田（信太）、平松、井口の三王子があります。藤原定家の記録では後鳥羽院の一行が篠田（信太）王子で禊ぎし、信太明神（聖神社）に参拝しています。王子町の地名は王子社があったことに由来します。

ゴール

⑯佐竹ガラス

昭和2年（1927）創業。伝統的和風建築の主屋や事務所が工場と一体となっているのが貴重で、国登録有形文化財です。ガラス工芸のショールームやワークショップなども開催されています。



まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「和泉市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和4年（2022）2月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用してください。

■プロデューサー | 陸奥賢（観光家／大阪まち歩き大学学長） ■コーディネーター | 宝塚陸寛（NPO法人SEIN／コミュニティLab所長） ■イラスト＆マップ制作 | フジワラトモコ ■協力 | いづみ市民大学観光おもてなし学科受講生（やまでひろむ／スマイル佐藤／しまづひろこ）